

てびねり

六月号

平成21年6月1日発行
株式会社ゆしま陶助

あまもんぜきじいん

尼門跡寺院の世界

皇女たちの信仰と御所文化

東京上野公園 東京藝術大学美術館

尼門跡寺院は、皇室の子女が若くして出家し門跡(住職)として厳しい修行を積み、生涯を終える寺でもありません。尼門跡寺院の独特の品格を維持した信仰と御所文化はわが国が世界に誇る文化遺産ともいえます。

隣の「阿修羅展」も連日大変な人気ですが、こちらも皇室から美智子妃殿下を始め皇室ゆかりの方々の来館もあり、連日賑わいを見せています。

天皇がご自分の子供を幼くして仏門に送り出すのは、当時としても大変な決意が伴ったものだと思いますが、会場に華やかに並ぶ出家の時に持たせた数々の人形やお守り、衣装、道具類は庄巻で、親元を離れる子と思う心が伝わってきます。是非、足を運ばれては如何でしょうか。



法華寺 十一面観音立像(ご分身)と善財童子立像



宝鑑寺 上段の間(再現)



右は会場の東京芸大入口
(5月26日撮影)

会場には、尼門跡寺院の大聖寺、宝鏡寺、曇華寺、光照院、円照寺、林丘寺、靈鑑寺、中宮寺、法華寺、三時知恩院、慈受院、宝慈院、本光院の十三の寺院から、国宝、重文を含め180余点が展示されています。

期間：6月14日迄
休み：月曜日
上記写真2点はサンケイイベント情報HPから転載。

◆今月の制作風景

廣川真弓さん

◆返礼の一輪挿し
心をこめて...



藤本晃子さん(右)

近藤真弓さん(左)

◆いつも仲良しの二人ですが
作っている物は違います



石井孝子さん

◆十個のぐい呑の
削りが大変



征矢野麻衣さん

◆今月から本コースです。
よろしくお願ひします。



関口隆司さん

◆ロクロで大きな
うつわに挑戦！



高石昌和さん

◆抹茶碗に染付中
陶芸家の雰囲気
が出ていますね



鉄井理央さん

◆まじめ？に制作中！



遠山つる子さん

◆プレゼントのマグカップ
完成がたのしみです。



武田京子さん

◆斬新なデザインの箸置き



菅野満雄さん

◆もう少し削りましょう



小窪猛さん

◆飯碗3個に釉薬掛け
力を抜いて慎重に



佐々由佳さん

◆大きな花器を作ります



◆初級コースご紹介

大原健さん

◆削りより作るのが好きです



不忍池恒例
「皐月(さつき)展」
5月末日まで

■私が勧める美味しい店

しょうろんぼう 小籠包「竺」

推薦者 杉山尚子さん

時々家族で散歩がてら錦糸公園を通り抜け食へに行くのが、小籠包の店「竺」です。
小籠包中心の中華ダイニングでお値段が手頃で味が良い店で、今まで期待を裏切られたことは一度もありません。

小籠包6個600円とか海老かに入り海鮮レタスチャーハン900円などお手頃値段です。私の家族はあまりたくさん頂かないので、細かく注文できるこのお店はとても重宝しています。



小籠包「竺」の店内と料理 「竺」HPより

錦糸町小籠包「竺」
墨田区錦糸4 14 3
電話3622・1601 無休

時間十一時三十分～三時
混んでいることが多いので予約をして行くのが良いと思います。
交通：JR錦糸町北口徒歩2分
地下鉄半蔵門線錦糸町徒歩2分
錦糸公園入口信号横です。

今月の作品

写真は実物と大きさが違う場合があります。作品の撮影とコメントは講師のみなさんにお願ひしています。

□ 渋谷洋子さん 「五月人形」



大きな鯉のぼりに金太郎がまたがっている五月人形です。釉彩と焼で色を付けました。大きな口がポイントになっています。

□ 片柳拓子さん 「組小皿」



古紋柄を染付した組小皿です。白土に呉須で染付し、透明釉を掛け還元焼成しました。御本手の色が鮮やかに出ました。

□ 知久真理子さん 「線文皿」



呉須を線象嵌した手の込んだ作品。削りの後に撥水剤を塗り線彫りしました。そこへ呉須を入れ素焼き、辰砂釉を掛け酸化焼成した作品です。

□ 中岡公子さん 「染付六角鉢」



丸く作った深鉢を歪めて六角鉢にしました。染付で桜と唐草模様を全体に入れました。品格のある、すばらしい作品です。

□ 平石規代さん 「線文組鉢」



モダンな柄を染付した組鉢です。中央に御本手が出たので温かみのある作品になりました。今回の窯は還元が中性だったので、より多く御本手が出ました。

□ 井口誠子さん 「盛鉢」



たっぷりしたうつわなので、盛鉢にも麵鉢にも使えるうつわになりました。伊羅保釉の流れが自然に出たのも良かったです。

□ 鈴木香さん 「片口鉢」



中鉢サイズの片口鉢に黒マット釉を掛け還元焼成しました。渋い色に仕上がりました。

□ 佐々木志保子さん 「組四方鉢」



佐々木さんのシリーズ作品で瀬戸と織部の四方鉢です。今回も良い色が出ました。

□ 宮崎誠仁さん 「台付ぐい呑」



台が無いと倒れてしまうぐい呑です。赤土に弁柄で竹の絵を描き、織部でアクセントを付けた作品です。うまい。

□ 上原由美子さん 「一輪挿し」



少し濃い目に辰砂釉を掛けて還元焼成した一輪挿しです。炎の関係で色が重なり合い、同じ赤でも、面白く出ました。

□ 小宮昌子さん 「片口鉢」



大きさも形も使いやすいような片口鉢です。油適天目釉に白萩をアクセントに掛け分けました。

□ 岡部厚子さん 「ふた物」



本体はシンプルに白マット釉で仕上げ、ふたは白萩釉、ルリ釉、黄瀬戸釉、織部釉でおしゃれな仕上がりにしました。

□ 澤三紀さん 「練込カップ」



白土に青い顔料を入れ、青海波の模様になるように練込み土を仕込みます。その土をスライスして筒に巻いて作ったものです。見た目以上に手数が掛かっている作品です。

□ 木谷光伸さん 「抹茶碗」



色、形、大きさどれをとっても見事な抹茶碗です。手に取った感じもしっかりと納まり良かったです。

渡邊美智子さん

端午の節句に見事な「兜」二つがご自宅の床の間を飾りました。

写真2点は渡邊美智子さん提供



見た事・聞いた事・読んだ事

「光源氏もインフルエンザに罹った」
 昨年光源氏物語が世に出て千年の節目の年で京都を中心に色々な催しが行われました。長辻象平氏が「寒蛙と六鼠」の中で、源氏物語を読んでいると、「夕顔」の巻に光源氏がインフルエンザに罹っていた描写が出て来ると書いています。「この暁より、しはぶき病みにやはべらむ、頭いと痛くて苦しくはれば…」と不調を訴え、病をおして外出した光源氏は落馬をしてしまうほど衰弱して、回復するのに20日以上要したのだそうです。

今、世界中でインフルエンザで大騒ぎになっていますが、細菌より小さいこの病原体は、はるか昔から大流行を繰り返してきて、1900年初頭のスペイン風邪、1950年代のアジア風邪、60年代の香港風邪等が有名ですが、日本でも平安時代、鎌倉時代に「死者はなはだ多し」と怖いやり風邪の記載が出てきますし、江戸時代の享保元年には江戸だけで8万人も死んでいるのだそうです。江戸時代の天下無双の横綱「谷風梶之助」が、やはり風邪で現役のまま亡くなったので、このはやり風邪を「谷風邪」と言ったそうです。



正装した光源氏
 (京都風俗博物館HP
 登場人物の人形より)

源氏物語にまつわる話をもつひとつ。
 豊臣秀吉は天下人になって源氏物語の勉強をはじめ、家康も豊臣打倒を決意したのと同時に源氏物語の資料を集め研究をはじめたと言われています。
 戦ばかりしている無骨な武者が、政治を司る天皇を中心にした宮廷貴族の生活を知るには、源氏物語を勉強するのが一番だったのだと思います。

その点では源氏物語は日本の歴史を動かして来たとも言えると思います。(佐藤)
 産経新聞「断」富岡幸一郎氏の記事参照